

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第6回和文会誌分科会 開催日：8月4日。出席者：田中主査，ほか11名。

1. 15件の論文審査報告があつた。
2. 鉄と鋼第59年第1号に論文14件，展望1件，技術資料1件を選定した。
3. 技術資料を1件依頼することとなつた。

第6回欧文会誌分科会 開催日：8月28日。出席者：中村正久幹事，ほか11名。

1. 18件の論文について審査報告がなされた。
2. 「鉄と鋼」59年9号より2件の論文について投稿を勧誘することとなつた。

共同研究会

運営委員会 開催日：6月7日。出席者：中野会長，ほか24名。

1. 前回総務幹事会報告
2. 昭和46年度共同研究会活動報告
3. 昭和46年度会計報告
4. 昭和47年度予算報告
5. 共研内規の改正・充実について
旅費規定，講演者依頼に伴う経費に関する規定などの総務幹事会案が承認された。

6. 共研開催マニュアルについて
総務幹事会案が承認された
7. 環境問題の取り扱い経過報告
8. 部会・分科会の運営について

高炉スラグの有効利用に関する共同研究，ESR 国際会議協力小委員会，検査・機械試験の自動化などを扱う委員会，耐火物分科会が製鉄プロセス全体の耐火物を取り扱うための組織変更などが協議された。

製鉄部会

コークス分科会 開催日：5月24日～5月26日。出席者：中村主査，ほか80名。

1. 特別講演
「直接製鉄法とその課題」(東大・松下教授)
2. 共通議題Ⅰ
「機械化・自動化の実績と問題点および今後の方向について」
・ワープを含む炉廻り作業を中心に，資料発表，討論が行なわれた。
3. 共通議題Ⅱ
「コークス粒度管理について」
・高炉装入コークスの粒度分布の実績，コークス粒度管理方法の現状と問題点，コークス粒度と高炉操業との関係などが報告された。
4. 自由議題
「加熟成型炭配合コークス製造法」など5件の発表が

あつた。

5. 工場見学

住金和歌山製鉄所ならびに住金化工・和歌山本社工場の見学を行なつた。

鉄鋼設備分科会 開催日：6月15, 16日。出席者：矢野部会長，ほか約80名。

下記テーマによるアンケート調査結果の報告と，5件の講演が行なわれた。

〈一般テーマ〉

1. 鑄床廻りの集塵について (川鉄・IHI)
 2. 焼結用集塵機の設計，保全上の問題点と対策 (新日鉄・住重)
 3. 製鉄設備の保全の問題点と体制 (鋼管・IHI)
 4. 熱風炉(高温)の問題点と対策 (住金・三菱重工)
- 〈講演〉
1. 高炉ガスの有効利用 (川崎重工)
 2. 高炉の将来について (新日鉄)
 3. 熱風炉の熱効率の改善 (三菱重工)
 4. グレートキルン式ペレット焼成装置について (神戸鋼)
 5. ルルギ式ペレット焼成装置について (日立造船)
- 工場見学は川崎重工・神戸工場で行なつた。

標準化委員会

第24回 ISO 鉄鋼部会 SC4 分科会 開催日：8月11日。出席者：清水主査，ほか12名

第14回 ISO/TC 17/SC 4 の国際会議の出席報告があり，工具鋼，チエン用鋼，フック用鋼については会議決定にしたがい，早急に意見取纏めを行なうことにした。また耐クリープ鋼，耐熱鋼，冷圧鋼，冷間引抜鋼については最終案到着次第検討することにした。

第42回普通鋼分科会 開催日：8月8日。出席者：青木主査，ほか15名

1. JIS 見直し検討
G3131, G3132, G3112, G3350, および A5528 の改正の要否の検討を行ない，G3350を除き，要改正と決定した。なお次回改正要点を煮詰め，改正素案の骨子を作成することにした。

第46回機械試験方法分科会，第23回 ISO 鉄鋼部会 SC6 分科会 開催日：7月26日。出席者：吉沢主査，ほか14名。

1. JIS 見直しの検討
引張試験片，衝撃試験片，引張試験方法，衝撃試験方法，エリクセン試験方法，Tかたさ試験方法，6規格のアンケート，回答結果をもとに，検討を行なつた。

第 6 回鋼質判定試験方法分科会 開催日: 7 月 25 日.
出席者: 西主査, ほか 15 名.

1. Nb, Ti 系非金属介在物の判定表示

JIS 非金属介在物試験方法による Nb, Ti の炭窒化物の実際結果から, B 系介在物または C 系介在物のいずれかに判定することにした.

2. マクロ組織試験

懸案であった快削鋼, ステンレス鋼, 耐熱鋼およびクロムニッケル鉄合金の標準腐食時間を決定した.

3. JIS 見直し

G0557, G0558, G0559 および G056 の 4 規格については現在アンケート依頼中であり, その結果を待つて検討することにした.

試験高炉委員会

第 22 回委員会 開催日: 8 月 2 日. 出席者: 若林委員長, ほか 9 名.

東京大学生産技術研究所千葉実験所にある試験高炉では 7 月 25 日から 8 月 8 日まで「水素ガスの高炉内挙動に関する研究」が実施されており, 操業状況の中間報告と設備見学を行なった.

鉄鋼標準試料委員会

第 3 回在京委員会 開催日: 7 月 26 日. 出席者: 池野委員長, ほか 9 名.

日本鉄鋼標準試料にワーキング・スタンダードを加えることの可否について引き続き検討されているが, その定義が決められ, 名称は「管理試料 (Setting-up sample)」とすることにした. 共研鉄鋼分析部会から蛍光 X 線分析用標準試料 (166 種 1 組) 10 組を譲受けたがこれを分譲することにつき話し合いが行なわれた. その他, 機器分析用標準試料も使い方によつては偏析の危険があり, その対策の検討, 酸素分析専用鋼の販売量に応じた製造の調整, 製鋼銑標準試料の製造方法変更の可否などについての討論された.

一般に鉄鋼標準試料は必ずしも最大限有効に活用されていないふしもあるので, 今後 JSS の製造販布に関する関心事, 分析成績表の訂正なども併せて使用に関する JSS 参考資料などを「鉄と鋼」誌の協会記事欄に掲載することにした. このほどユーザーに対し行なつた市場調査アンケートの中間結果が発表されたが最終結果を見てこれを適宜反映させてゆくこととした.

ジェットエンジン用耐熱合金研究委員会

第 16 回委員会 開催日: 6 月 21 日. 出席者: 雑賀幹事, ほか 17 名.

1. 昭和 46 年度試験研究中間報告として供試材などに試験担当会社より進捗状況, 中間結果が報告された.

2. 昭和 47 年度重要技術研究開発補助金を申請した結果, 専用試験機三台分として 150 万円の交付が決定した.

3. 昭和 47 年度活動計画が補助金申請書に従つて検討された. 供試材としては INCO 713 LC, X40, U700 (鑄造材, 鍛造材, 外日鍛造材), 64 BC を取り上げる.

鉄鋼基礎共同研究会

第 19 回遅れ破壊部会 開催日: 7 月 28 日. 出席者: 金尾部会長代理, ほか 11 名.

以下の研究発表が行なわれた.

(1) 環境脆性破壊の発生

山口大 蒲地 一義

(2) アコースティックエミッション法を用いた遅れ破壊の初期段階の研究.

新日鉄 南雲 道彦

第 1 回のシンポジウム開催要領の詳細が決定された. テーマ: 鋼における水素の挙動 (副題: 遅れ破壊機構解明へのアプローチ), 日時: 昭和 47 年 11 月 22 日 9:30~17:00, 場所: 新丸ビル大会議室, 講演題目: (1) 遅れ破壊の機構 阪大・藤田 (9:30~10:50)

(2) 水素による遅れ破壊の現象的特徴について日鋼・大西 (10:50~12:10)

(3) 強力鋼の遅れ破壊感受性 金材技研・金尾 (13:00~14:20)

(4) 鉄鋼材料の水素誘起現象 山口大・蒲地 (14:20~15:40)

(5) 鉄中の水素の拡散に関する最近の研究と問題点 東北大・平野 (15:40~17:00)

第 6 回固体質量分析部会 開催日: 7 月 25 日. 出席者: 須藤部会長, ほか 18 名

1. 共同実験結果報告

同一試料について, 実験条件を同一にして, 各所のスパーク型質量分析器による, 第 3 回共同実験を行ない, 6 所から結果が発表され, 未報告のところは, 8 月末までに報告することとなつた.

2. 自動解析について

自動解析による検量線の引き方, 乾板, セットの問題について討論があり日本電子が検討することとなつた. また, 自動解析の共同実験を日本電子で行なう.

3. 講演

「高分解能スパーク源質量分析器によるガラス中の微量元素の定量」

について, 久保田英次氏 (日本電子) から講演があり, 質疑がかわされた.